

もっと分け合える、もっと優しくできる

第8回 言の葉大賞®

私が毎日満員電車の窓から見える景色を見て思うこと、それは縄文人が今の時代にタイムスリップしたらこの景色を見て何を感じるのかということだ。縄文人から見て今の時代は約一万五千年後。そう考えると一つ疑問に思うことがある。それは「縄文人は私たちとそもそも考え方が違うはずである。」ということだ。気になったので、縄文人の考え方に ついて調べてみた。

調べてみると、縄文時代は遺跡から争いの跡がないことから、とても平和な時代で、お互いに必要なものは分け合うという考え方があったそうだ。私は昨年四月に発生した熊本地震がこの考え方をよく表していたと思う。

熊本地震での死者は四十人以上、全半壊の家屋は千七百棟を越えた。この地震の直後、岩手県からお米が送られ、福島、山形から医療チームが派遣され、宮城からは救援物資が送られ、陸上自衛隊東北方面隊が千七百人も派遣された。五年前の東日本大震災で助けもらった恩を返そうと、東北の人々が支援したのだ。私はここまで詳しくは知らなかったのだが、テレビのニュースで東北の人々が熊本を支援しているのは知っていた。テレビに映る東北の人々はみんな、「東北に恩返しをしたい。」と言っていた。その顔はたくましかった。

会ったこともない人を困っているからと助けてあげる日本はとても良い国だと思う。今の時代は縄文時代に比べて何もかも発達している。しかし、優しい心は縄文時代と同じで変わっていないのかもしれない。文明が発達したことで必要なものを分け合う機会も増え、手段も増えた。だったら、もっと分け合える、もっと優しくできると思う。きっと縄文人がタイムスリップしてやって来てもそう思うだろう。私は約一万五千年後の未来のためにもっと分け合い、もっと優しく生きていきたいと思う。たとえ電車から見える景色が、がらりと変わってしまったとしても。